

2022年3月期

第2四半期決算補足資料

確かな品質で豊かな未来につなぐ



前澤給装工業株式会社

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要
2. 2022年3月期 通期業績計画
3. 株主還元

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

2022年3月期2Q実績 **増収・減益**

売上高	140億 42百万円	(+ 4.7%)
経常利益	12億 7百万円	(▲6.9%)

(給水装置事業)

- 底堅い配水管布設替工事、住宅需要の持ち直しを受け、継手類を中心に売上高は増加
- セグメント利益は、期初からの銅価格急騰の影響を受け7.1%減少
銅建値は、5月には119万円/トンとなり、過去最高値を更新

(住宅設備事業)

- 新設住宅着工戸数の回復に伴い、給水・給湯配管システム関連部材等の販売が増加
- セグメント利益は、販売構成の変化もあり3.7%減少

(株主還元)

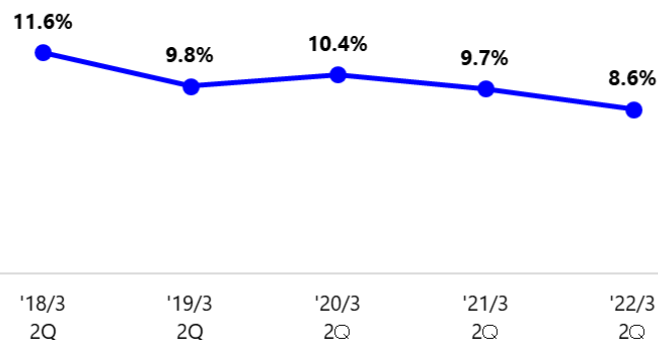
- 自己株式取得を実施（2021/8/23～12/23） 上限：取得価額総額200百万円または24万株
- 中間配当額は、期初計画どおり10円

2022年3月期 第2四半期決算概要

上半期実績 : 期初計画を上回って推移

(単位:百万円)	2021/3月期 2Q		2022/3月期 2Q		前年同期比		期初計画	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率	金額	構成比
売上高	13,409	—	14,042	—	+632	+4.7%	13,430	—
営業利益	1,242	9.3%	1,138	8.1%	▲104	▲8.4%	1,010	7.5%
経常利益	1,297	9.7%	1,207	8.6%	▲89	▲6.9%	1,060	8.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	926	6.9%	785	5.6%	▲140	▲15.2%	720	5.4%

売上高経常利益率

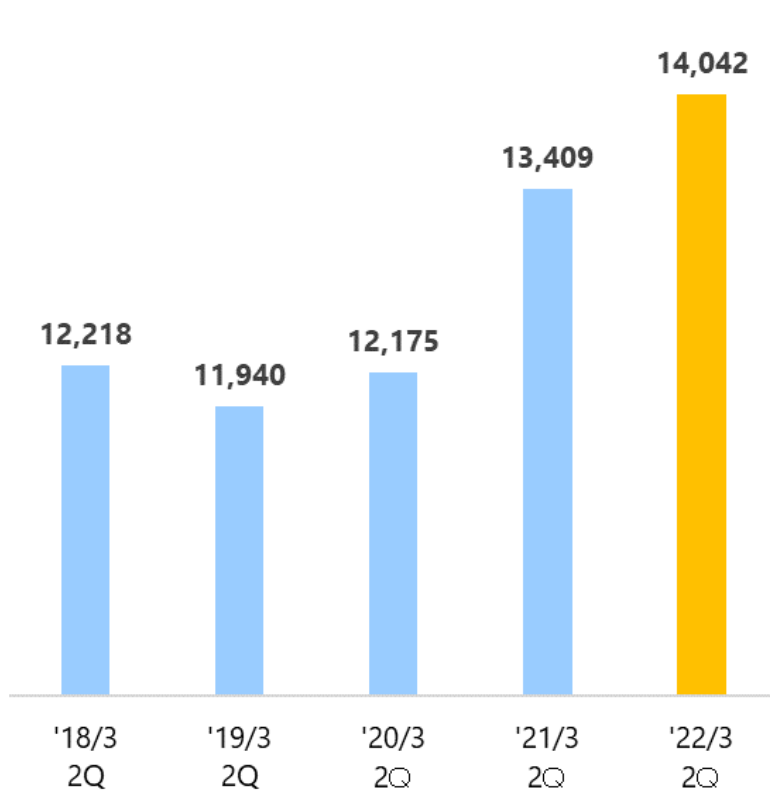


経営成績推移（5年間）： 売上は全体的に回復基調となり堅調に推移

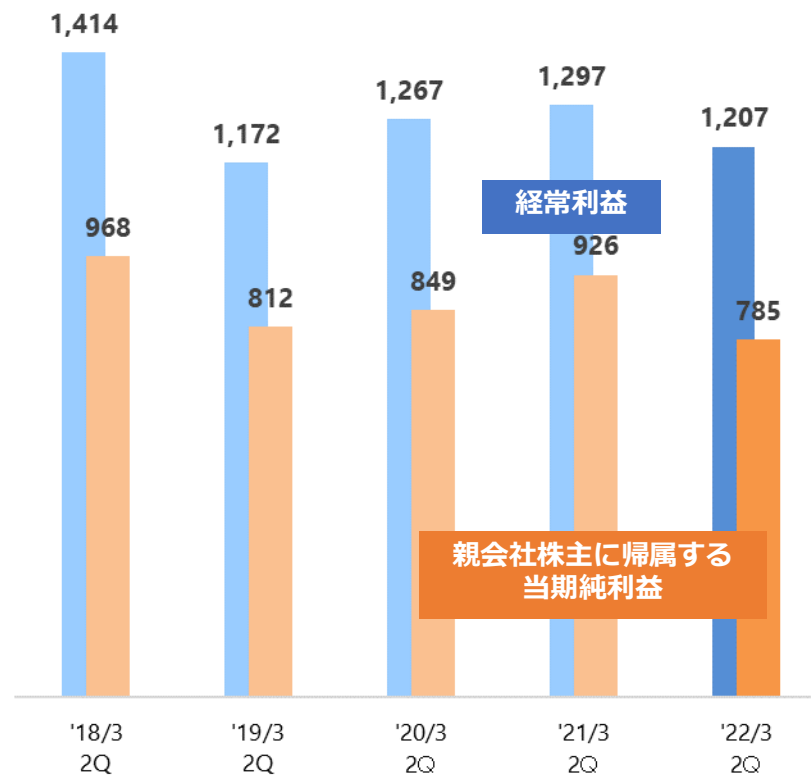
(単位：百万円)

(単位：百万円)

売上高推移



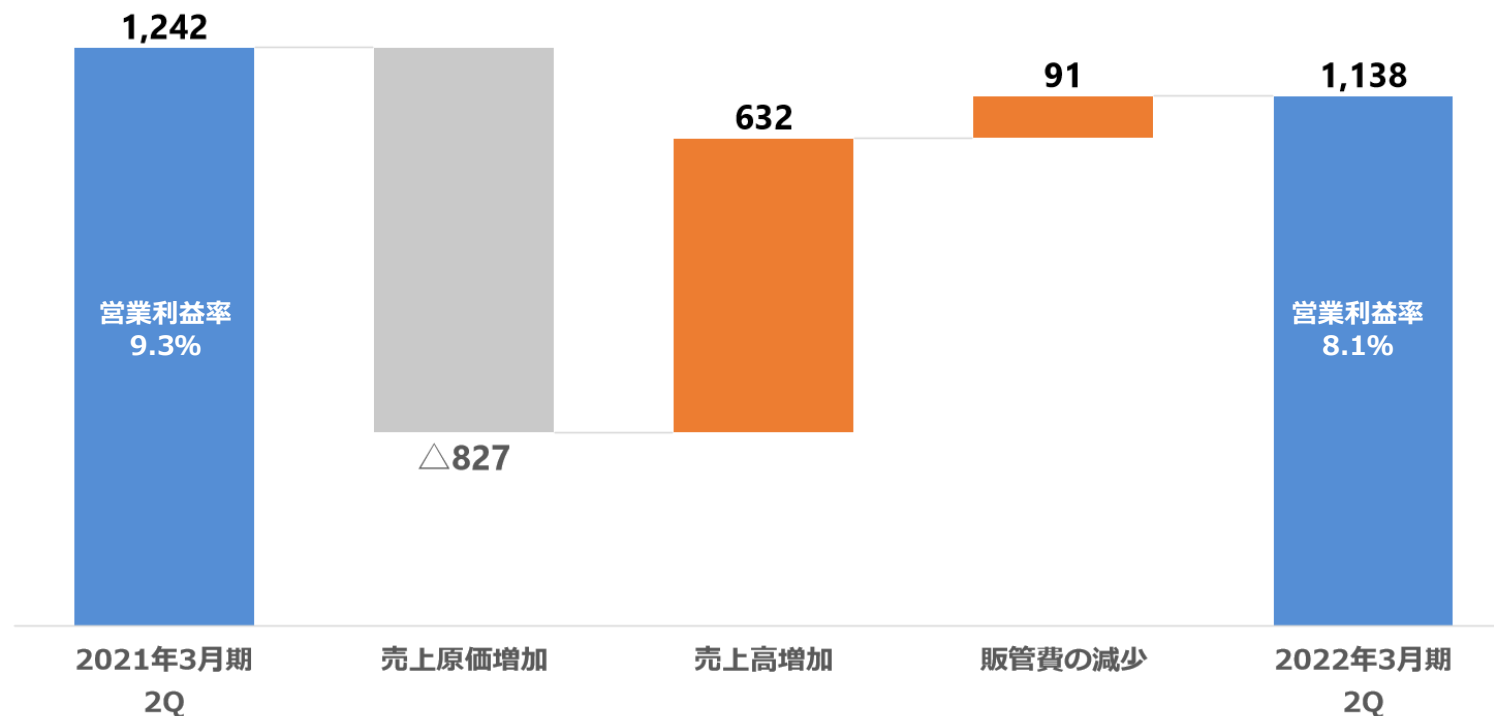
利益推移



2020年3月31日
前澤北`ンク・ソリューションズ`株式会社を
連結子会社化

営業利益の増減要因（前年同期比）

（単位：百万円）



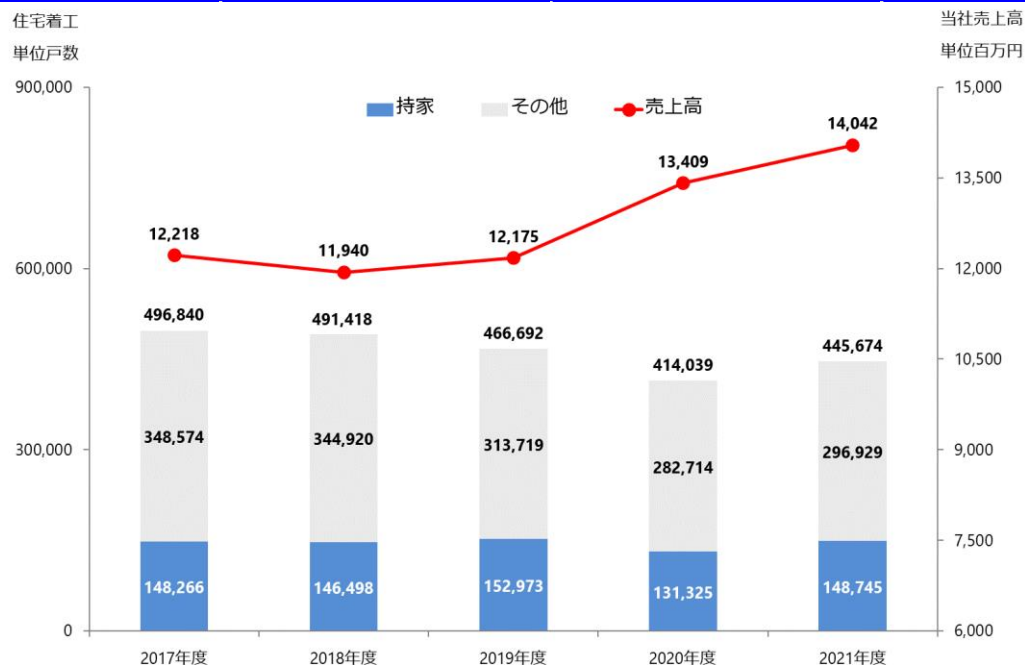
項目	増減要因
売上高	継手類、給水・給湯システム配管部材が堅調に推移
売上原価	銅価格急騰の影響額 約+600
販管費	役員賞与、退職給付費用等人件費▲69、減価償却費▲22

市場環境① 住宅市場

- 新設住宅着工戸数は前年に比べ持家や貸家を中心に増加傾向で推移
前年の建築工事遅延等に伴う大幅な落ち込みから持ち直しの傾向

<2021年度上半期 新設住宅着工>

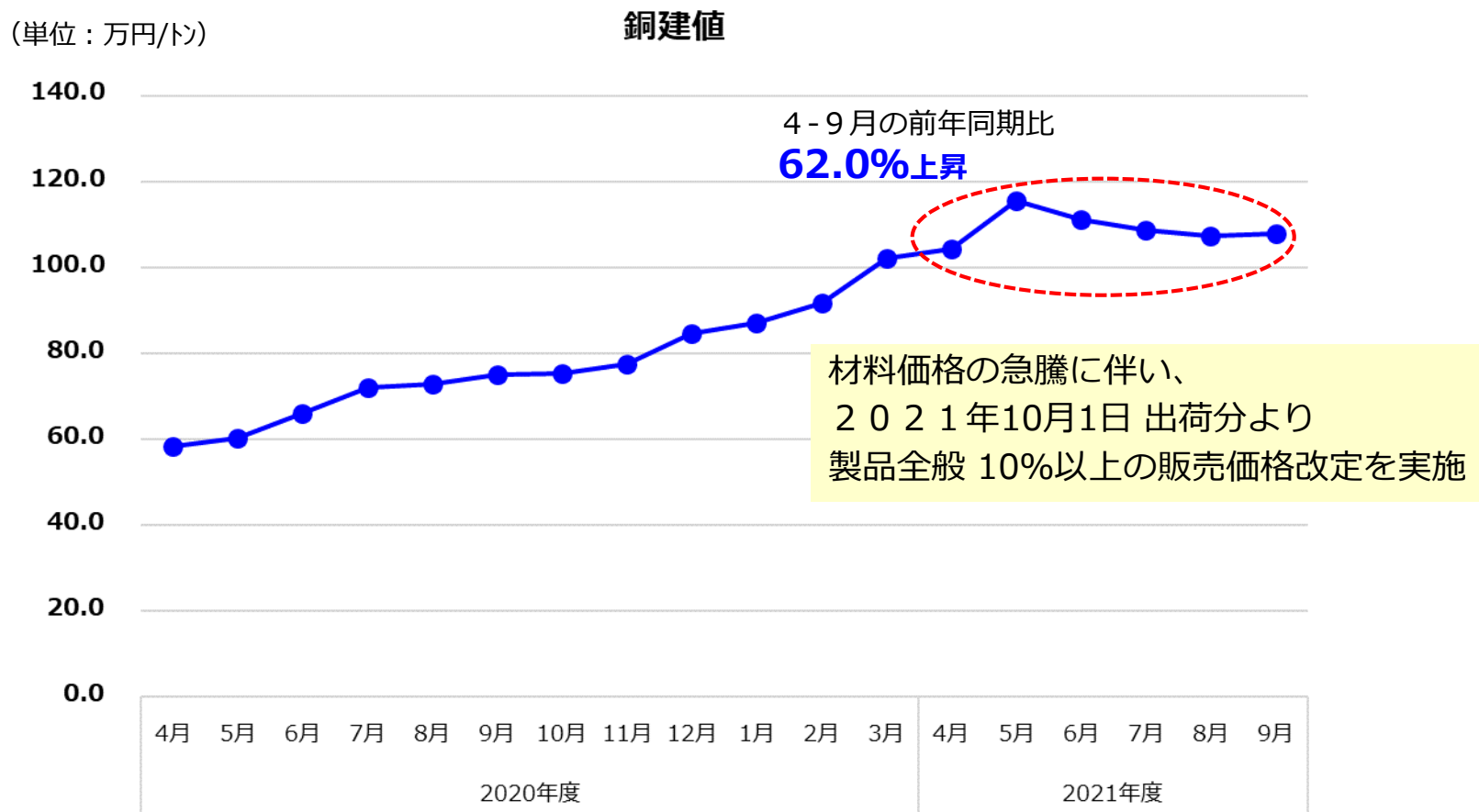
(単位：戸)	2020年 4～9月	2021年 4～9月	増減率
新設住宅着工戸数	414,039	445,674	7.6%
うち持家	131,325	148,745	13.3%
うち貸家	156,506	169,918	8.6%
うち分譲住宅	122,954	124,057	0.9%



市場環境② 主要原材料価格の動向

- 主要原材料である銅の建値は、4月に102万円/トンで始まり、5月には119万円/トンを記録するなど、前年同期を大幅に上回る水準で推移

前期 4 - 9月平均67.4万円/トン、当期 4 - 9月平均**109.2万円/トン**



貸借対照表の状況

(単位：百万円)	2021/3期 期末	2022/3期 2Q	増減額	主な変動要因
流動資産	29,794	31,344	1,549	現預金+465、有価証券+299
売上債権	10,132	10,475	342	受取手形及び売掛金+583、電子記録債権▲240
棚卸資産	5,169	5,492	322	商品及び製品+180、原材料及び貯蔵品+98
有形固定資産	7,602	7,530	▲71	機械装置及び運搬具▲66、建物及び構築物▲38
無形固定資産	763	742	▲21	
のれん	355	336	▲19	
投資その他の資産	5,844	5,873	28	投資有価証券+103、保険積立金▲44、繰延税金資産▲26
資産合計	44,004	45,490	1,485	
流動負債	6,709	7,088	379	買掛金+825、その他▲342
固定負債	883	1,004	121	繰延税金負債+194、退職給付に係る負債▲72
負債合計	7,592	8,093	500	
純資産合計	36,412	37,397	984	利益剰余金+497、その他有価証券評価差額金+404
総資産	44,004	45,490	1,485	

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)	2021/3期 2Q	2022/3期 2Q	増減額	主な変動要因
現金及び現金同等物の期首残高	12,069	13,348	+1,278	
同上の換算差額	▲12	25	+37	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,435	692	▲742	税金等調整前四半期純利益▲162 たな卸資産▲538、未収入金+254 仕入債務+328、未払消費税等▲673
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲559	24	+583	有形固定資産+262 保険積立金解約+134 子会社株式取得+147
フリーキャッシュ・フロー	875	716	▲158	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲474	▲338	+136	自己株式取得+156
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,458	13,752	+1,293	

セグメント別の状況

(単位：百万円)

(セグメント売上高)	2021/3期 2Q	構成比	2022/3期 2Q	構成比	前年同期比	
給水装置事業	7,830	58.4%	8,186	58.3%	+356	+4.6%
住宅設備事業	5,394	40.2%	6,480	46.1%	+1,085	+20.1%
商品販売事業	1,004	7.5%	1,172	8.4%	+168	+16.8%
調整額	▲819	▲6.1%	▲1,797	▲12.8%	▲978	—
合計	13,409	100.0%	14,042	100.0%	+632	+4.7%

(セグメント利益)	2021/3期 2Q	セグメント利益率	2022/3期 2Q	セグメント利益率	前年同期比	
給水装置事業	2,420	30.9%	2,248	27.5%	▲171	▲7.1%
住宅設備事業	1,034	19.2%	996	15.4%	▲38	▲3.7%
商品販売事業	49	4.9%	68	5.8%	+18	+37.3%
調整額	▲2,261	▲276.1%	▲2,174	▲121.0%	+87	—
合計	1,242	9.3%	1,138	8.1%	▲104	▲8.4%

2. 2022年3月期 通期業績計画

業績計画

- 新設住宅着工戸数は回復傾向も、主要原材料の銅価格は、10月に1トン134万円歴史的な高値水準であり、今後も上伸見込む ➡ 期初計画変更せず

(単位：百万円)

	2021年3月期 実績		2022年3月期 計画		前期比	
		構成比		構成比		
売上高	27,512	—	27,600	—	+87	+0.3%
営業利益	2,598	9.4%	2,090	7.6%	▲508	▲19.6%
経常利益	2,683	9.8%	2,160	7.8%	▲523	▲19.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,866	6.8%	1,460	5.3%	▲406	▲21.8%

セグメント別計画

(単位：百万円)

セグメント年間売上高	2021年3月期 実績	構成比	2022年3月期 計画		前期比	
				構成比		
給水装置事業	15,743	57.2%	15,800	57.2%	+56	+0.4%
住宅設備事業	11,046	40.1%	11,150	40.4%	+103	+0.9%
商品販売事業	2,359	8.6%	2,300	8.3%	▲59	▲2.5%
その他	▲1,636	▲5.9%	▲1,650	▲6.0%	▲13	—
合計	27,512	100.0%	27,600	100.0%	+87	+0.3%

設備投資・減価償却費・研究開発費

■ 基幹システム・サーバー（販売・生産）及び生産設備（NC旋盤他）は下半期に投資計画

（単位：百万円）

	2021/3期		2022/3期	
	上半期実績	通期実績	上半期実績	通期計画
設備投資	171	325	213	780
減価償却費	316	687	279	653
研究開発費	136	264	148	330

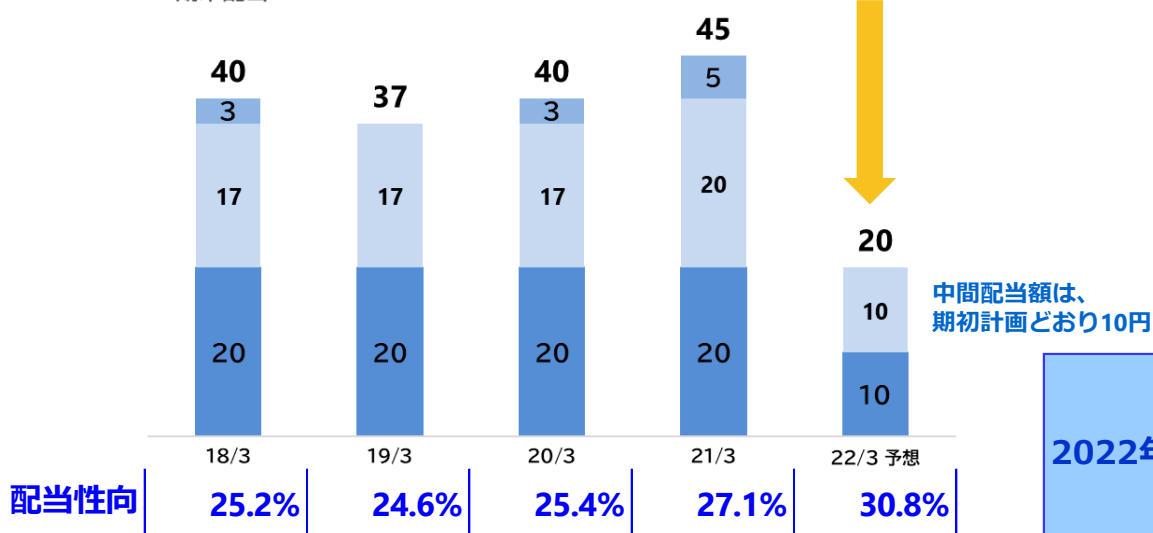
3. 株主還元

配当金および自己株式取得

配当金の推移

(金額単位：円)

- 特別配当・記念配当
- 中間配当
- 期末配当



※2021年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

自己株式取得

2021年3月期までの5年間で
211～383百万円の機動的な
自己株式取得を継続実施

【自己株式の取得状況】

2022年3月期は、
上限：200百万円（24万株）の
取得枠を設定
（2021年8月23日～12月23日）

2022年3月期	取得金額	108百万円
	残高	632百万円
	取得枠残	91百万円

2021年9月30日現在

◆会社指針

Quality, Safety & Originality

～弊社を「人」にあてはめると～

Quality

品質は
人格であり

Safety

安全は
協調であり

Originality

独創は
改革である

本資料に掲載されている見通しは、現在入手可能な情報からの判断に基づいておりますが、様々な要因により変化することがあり、実際の業績を確約するものではありません。